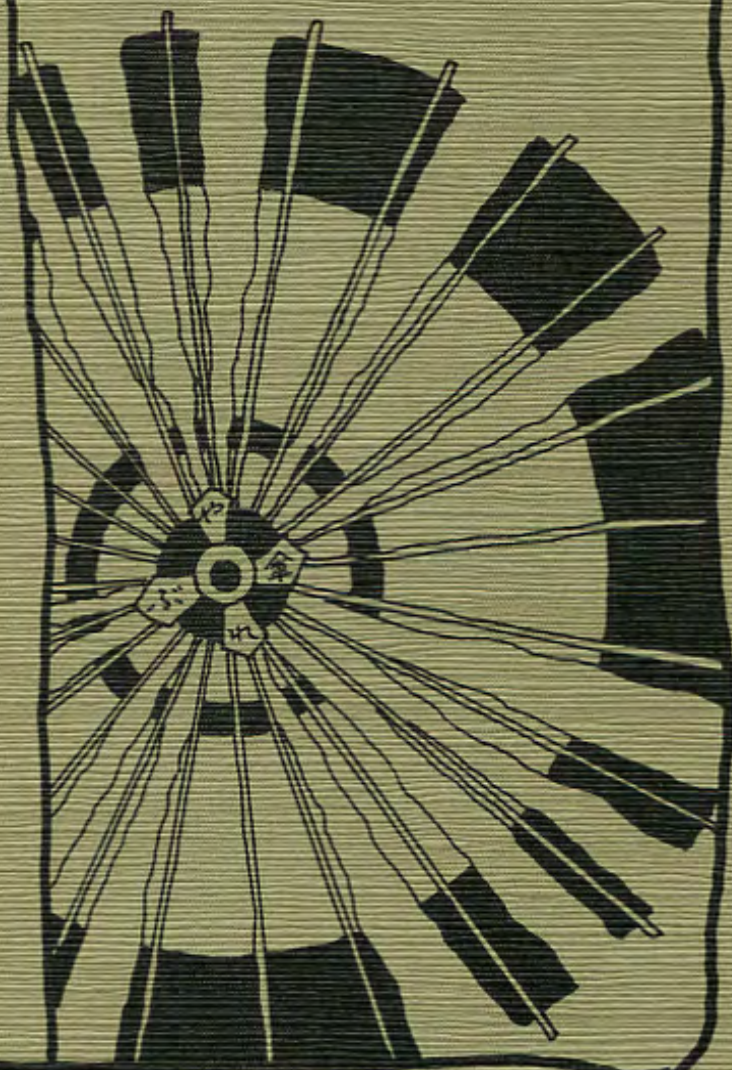


やぶれ傘



六十八号

二〇二二年十月

手火花を持つ手の水に映りゐる 根橋宏次

蚊を打つて血液型の話など きくちきみえ

溝萩や農婦は腰に鎌差して 廣瀬雅男

宵宮の舞台ほどよき風を受け 大島英昭

高橋のぐるりかんかん照りの秋 丑久保 勲

年配の跳び越えてゆく秋の蛇 安藤久美子

目と耳で追ふ秒針や鉦叩 瀬島酒望

川風に吹かれて秋にひたりけり 白石正躬

猫が来る月夜の歴史館の塀 藤井美晴

境内の木々に風来る夜の秋 渡邊孝彦

終バスを降りて家まで虫時雨 國保八江

指先で揉む鬼灯のふによふによと 有賀昌子

萩咲けり芭蕉の詠みし夢の跡 久世孝雄

蠅ひとつ隣りの席で討たれけり 松村光典

逃げ惑ふ油蟬追ふ雀かな 高柳正幸

抄 集 句 傘 ね ぶ や 夫 選 大 崎 紀

金亀子玻璃にぶつかりしばし死す 時田義勝

カウベルの不規則に鳴る夏の山 野口希代志

ペランダのサンダルに足灼かれけり 橋本美代

干梅を裏返しては唾をのむ 三角よね子

噛み砕く氷のかけら夏祭り 湯本 実

夕顔や寺に住職独り居て 秋山信行

窓枠に入道雲の収まらず 浅嶋 肇

板塀に節穴続く酔芙蓉 天野美登里

撫でるたびあくびする猫夏座敷 奥田温子

盆に来て母の鏡台使ひけり 上林富子

みんなのふる里静か母寝て 菊地葉子

蟹死にをり夕日を返へす潮だまり 忽那みさ子

一斉に首を傾げて神輿揉む 黒木東吾

引き出せる靴より跳ねしいとどかな 小池一司

坂道の丸踏んで行く夏の雲 小山陽子

露 草

藤井美晴

火口より硫黄のにほひ栗の花
蜘蛛の囀の水玉に日の射しにけり
崩れつつ雲かがやける百日紅
枝を打つ樹より空蟬零れけり
昼すぎの日差し明るき酔芙蓉
猫が来る月夜の歴史館の塀
月光が『マルドロールの歌』に来る
満月を真上に雨後の海鼠壁
板塀にすずめの集く野分晴れ
露草や明るき雨が通り過ぐ

夜の秋

渡邊孝彦

枝折戸や顔にまつはる蜘蛛の糸
梅雨曇塔の九輪に日のあかり
例祭の会場造り蚊遣香
渡船跡に紡ふ漁船や八重葎
梶子やレンガ造りの神輿倉
島目指す遊覧船に大西日
足下の暗きぽんぽり祭かな
アスファルト舗装の臭ふ百日紅
祭笛鳥居の紙垂の白さかな
境内の木々に風来る夜の秋

虫時雨

國保八江

扇子買ふ窓のはるかに東山
本裁の浴衣を孫に着せにけり
屋敷神の辺りいつもの墓の出で
睡蓮に巻葉を添へて活けにけり
稲妻の下を稲妻走りけり
少年兵の遺書は短かし蟬時雨
糸瓜棚に糸瓜垂らして武家屋敷
波音は露天風呂へと星月夜
終バスを降りて家まで虫時雨
秋海棠閑伽桶に水汲み入れて

鬼
灯

有賀昌子

下野草茶屋の灯しとなり
にけり
花空木湖あをきへと散りにけり
行きゆける山かいの道みちをしへ
梅雨晴間鳥居手前のカフェテリア
弁慶の睨みの押し絵夏座敷
滝の道椎の朽木の転がりて
指先で揉む鬼灯のぷによぷによと
秋近し身八つ口から風を入れ
落日のやうなかたちのとまとな
アメヤ横丁浴衣に靴の少女たち

雀
蜂

久世孝雄

ビール酌むつまみは全て畑のもの
水鉢の水舐めにくる雀蜂
通夜帰り夏三日月を仰ぎつつ
雲の峰県境に河きらめけり
夕映えの入道雲や敗戦忌
上下から全身包む残暑かな
小刻みにこほろぎの声暁近し
かなかなの声透きとほる宿に着く
萩咲けり芭蕉の詠みし夢の跡
船頭の声朗々と溪谷たには秋

夏
雲

松村光典

身の丈に余るトランク夏の駅
雨のなか落ち蟬拾ふ二つ三つ
丹沢に朝の夏雲かかりけり
ぐつたりの猫四匹や夏旺ん
夏の夜は結婚式で更けにけり
夕焼けのドナウの空に鷗飛ぶ
蠅ひとつ隣の席で討たれけり
夏の夢なにかなつかし筋なりし
サルビアに植ゑかはりたる花壇かな
夏つばめ飛び交ふ上に飛行機雲

養蚕の旧家の屋根や雲の峰
 雨雲の低く垂れく凌審花
 逃げ惑ふ油蟬追ふ雀かな
 拳ふりあげると如くに夏の雲
 真夜中のつづく法師鳴きにけり
 星の夜のべンガル湾の風涼し
 ががのぼの脚の揺らぎをみてゐたり

高柳正幸

平熱の体温温計や半夏生
 靴の紐かしかと結びなして青嵐
 のつけかけから男女のはなし冷奴
 ラジオより正午の時報夏旺ん
 消しゴムのいたく黒ずみ夏の宵
 三代に渡る羽織の土用干し
 さうめんに残る氷や夜の雨

高橋均

波に乗る影の三つ四つ梅雨晴れ間
紫陽花や無人駅舎に案内図
甚平の背に祭の字男の子なる
蛍の光るに見入る幼の目
くるりんと空巻きしたる瓜の蔓
花つけて小指ほどなる胡瓜かな
山鳩の声して朝の暑さかな

武石京子

紫陽花の色にはじまる立話
板間の足跡残す半夏生
炎昼や暗証番号ふと忘れ
端居して時刻表みる旅の宿
突風に散りし噴水を撒く
八橋の覚束なしや古代蓮
手櫛もて髪整へる岩清水

武田紀久

時田義勝

卯の花や転居を決めし老夫婦
糠雨の水玉となり花あやめ
茶畑に猫の入り行く青嵐
水郷の整備工事へ小鯨刺
金亀子玻璃にぶつかりしばし死す
口開けて鴉の歩く大暑かな
藻の花を浮かべてゐたる生簀かな

都丸スミ代

河口へと濁流走る梅雨の川
つくば峯やつかず離れず黒揚羽
品書きの筆文字細し夏料理
夏霧や那須野が原の牛の声
トネルを抜けて飛沫の滝の前

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
11月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	7日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	24日(土)	AM10:00	楽 天 会	教育センター	廣 瀬 雅 男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
12月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	26日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月16日(日)の吟行。集合は10時。JR上野駅公園口改札口。

東京文化会館の前です。句会場は滝野川会館302号集会室。

◎連絡先 瀬 島 孟 ☎048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎0422-55-2733
 大 島 英 昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣 瀬 雅 男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ